3月8日、議員４人が会派を代表して一般質問を行い、町長施政方針の考えをただしました。

Q コミバスの状況は

新政会　代表質問
奥田 俊則

A 町長　平成28年度に実証運行を実施

▲車いすも乗れる大型福祉車両

問 コミバスの実証運行は、交通の利便性、交通弱者の対応を基本に導入とのことだが、運行ルートの東西2ルートが交通弱者の対応となるのか。運行時間は片道45分、各ルート1日7便（往復）で利便性を図れるのか。

答 路線バスを補完するものとして、既存バスが乗り入れ困難な道路幅員の狭小な地域への乗り入れを基本に、より広い地域をカバーできるよう2ルートを設定。運行車両2台、運行時間帯を8時～18時台と計画。片道45分の所要時間は、できる限り広いエリアをカバーしようとした結果である。

問 乗車率が目標に達しない場合、実証運行終了後に廃止するのか。

答 目標に達しないからすぐに廃止ではなく、本格運行に向けて、課題や問題点を明らかにし、検証する。収益性だけで判断するのではない。

Q 空き家などの対策は

A 町長　特措法に基づき実施

問 適切な管理が行われていない空き家などが、地域住民の生活環境に悪影響を及ぼしている対策は。

答 特定空家を解消する施策や適切な管理を継続し、特定空家にさせない施策を行う。

問 特定空家などへの指導・勧告などの対応は。

答 国のガイドラインを参考に、措置を講ずる際の具体的な手続きや順序を定めていく。

Q サポートチーム播磨の構成は

公明党　代表質問
木村 晴恵

A 町長　学習上・生活上の支援

▲ネット社会に向けて勉強中（播中）

問 サポートチーム播磨の構成と内容は。

答 14名の学校生活サポーターと地域ボランティアで構成。学校生活サポーターは、児童生徒への学習・生活上の支援を担任と協力し指導を行う。地域ボランティアは、例えば現役大学生が授業補助に入り、各種団体所属の方が体育やクラブ活動などの補助を中心に行う。ことぶき大学などの方は心のケアなどを担当。すでに退職した教員の方などに、不登校児童・生徒への学習、家庭支援、教育相談などを計画。

問 授業内容で遅れている児童生徒への対応は。

答 学校生活サポーターと学力向上ボランティアと連携し、時間の許す限りお願いする。

問 日本語指導が必要な児童・生徒への対応は。

答 在留期間に関係なく支援し、早期適応を促す。

Q 国土強靭化の計画は

A 町長　調査研究していく

問 大規模自然災害などから町民の生命、財産を守る国土強靭化計画は。

答 地域防災計画を進めるとともに、国土強靭化についても調査研究する。

問 災害に備えた公共施設や橋などの耐震検査の今後の予定や強靭化の考えは。

答 強靭化は必要。定期的に一斉点検をして、必要に応じ改修している。

その他の質問

▼図書館利用の向上は。
▼ネットに関する講演の聴講増は。

Q 待機児童の解消は

政風会　代表質問
岡田 千賀子

A 町長　総合的に検討する

▲どの子も笑顔でおめでとう
（播磨幼稚園卒園式）

問 本町南東部の宅地開発により大幅に増えている園児数に対応するため、播磨幼稚園遊戯室の建設などで幼稚園の待機児童は解消される。しかし、退園時間の延長などを要望される声もある。

平成28年度の保育園待機児童の予定数は現在、11人である。待機児童解消のためにも、幼稚園退園時間延長の検討は。

答 幼稚園での退園時間の延長を行うと、保育園に行かなくても幼稚園での預かりが可能になる児童がいることから、保育園待機児童数解消の施策の一つとして認識している。実施の際は、教育・保育の両面から子育て支援策を総合的に検討していきたい。

Q 高校に期日前投票所を

A 町長　現状では困難と考える

問 投票率の向上に向けて公職選挙法が改正され、期日前の投票時間延長や投票所を高校などに設置することが可能になる。

本町でも高校に期日前投票所を設置することで、周辺住民も利用でき、生徒たちへの啓発にもなるのでは。

答 さまざまな観点から現状では困難と考える。選挙権年齢の18歳以上への引き下げを主権者教育の契機として捉え、投票の意義などについて理解を深めてもらう高校への出前授業や、投票箱の貸し出しを県と連携して取り組んでいきたい。

Q サポートチーム播磨とは

日本共産党　代表質問
松岡 光子

A 町長　学校生活をチームで支援

▲わかるできる喜びを（西小）

問 教科専門指導教諭配置事業は平成17年から実施し、着実な成果を評価された事業である。終了に当たり、今後の取り組みは。

答 各学校には27年度最終となることを伝え、集大成として授業展開の見直しや子どもたちの習熟度別・単元別などで、少人数指導を実践した。

問 学校現場の運営を、総合的にサポートする学校生活サポーターの資格や雇用形態、職務内容は。

答 資格は教職員免許所有者で雇用形態は嘱託職員として週5日、31時間勤務する。教科専門指導教諭は算数に特化されており、他教科や学級活動・生徒指導には活用できない。そのため、学校現場からも多方面で活躍できる人員が求められている。

問 退職教員による不登校支援は期待できるが内容は。

答 担任を中心に信頼関係を築き家庭支援に対応してもらう。

問 学校生活サポーター14名の配置基準は。

答 支援の必要な児童・生徒の割合、学校の規模を加味し配置する。

問 サポートチーム播磨とは、教科専門指導教諭とスクールアシスタントの役割を学校生活サポーターと地域ボランティアの協力で行うものか。

答 両者で協力して学校生活をチームで支援する。

その他の質問

▼高齢期の安心を
▼広域ごみ処理事業は
▼安心して働ける職場に